

令和3年度 大野小学校現職教育実践記録（社会科）

1 研究主題

社会的な見方・考え方を働かせ、児童が課題を主体的に追究・解決する授業はどうあればよいか。

2 めざす子ども像

主体的に社会的事象や学習課題に関わり、対話的な学びの中で社会的な見方・考え方を働かせ、調べ考えたり、選択・判断したりすることができる児童の育成。

3 主題設定の理由

(1) 社会科教育の今日的課題から

- ① 地域の東日本大震災及び原発事故からの復興や、持続可能な社会づくりへの取り組みなどについて身近な教材の開発が必要である。また、教材を通して児童の郷土に対する誇りと愛情を育てなければならない。
- ② 地域素材の教材化及びその指導法の充実を図らなくてはならない。また、郷土資料や副読本の授業における効果的な活用・利用について検討しなければならない。

(2) 本校の児童の実態から

- ① 身の回りや地域の社会的事象については関心や興味があるが、直接自分自身が関わらない社会的事象については関心が低く、主体的な学習に結びついていない。
- ② 自分自身が今後、社会をよりよくしていける可能性をもっていることに気づかない者が多い。
- ③ 社会科の追究・解決の内容や方法が身につけていない。

(3) 教師の願いから

- ① 社会的事象に関心や興味をもってもらいたい。
- ② 授業を含めて社会的事象に対して主体的に学習を進めてほしい。
- ③ 資料等を活用して、自分の考えや判断したことを説明してほしい。

(4) 昨年度の研究内容から

① 成果

- 算数科と関連させて、グラフの読み方もできるようになった。
- 調べた内容をまとめることも少しずつできるようになってきた。
- 話し合いをまとめ、次の活動に生かすコーディネートが参考になった。
- 「自分の思いや考えをもてるようにする」ことはよかった。
- 知識習得のための手立てとして、見学前に疑問をもたせて表出させることができた。
- インパクトのある資料を提示することで、自ら進んでめあてを設定しようとする意欲が出てきた。
- 自分の考えについて資料をもとに表出することが自然にできるようになった。
- 子どもたちの考えを引き出すための板書構成の工夫。構造的な板書計画。

② 課題

- 資料の精選。視点のもたせ方。交流のもたせ方。
- 資料（文章）の読み取り
- 子ども同士が話し合いを作り上げていくような力を身につけさせていくことが課題である。
- コーディネートが課題。
- グループやペアでの話し合いから、全体へ広げるのにもうひとつ手立てが必要であった。それがあれば考えを深めたり広めたりできた部分があったのではないかと思う。
- 学習活動に対する素早い取り組み。
- 子ども同士での学び合いや練り合い。

4 研究仮説

社会科の授業において、以下の指導を充実させれば、児童が主体的に課題に取り組み、解決に結びつけることができるであろう。

- ① 児童の「問い」や「思い・願い」を引き出すために、社会的事象との出会いを工夫する。（社

会的な見方・考え方)

- ② 出会った社会的事象をもとに、自分の思いや考えを持てるようにするために、発問や指示を工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- ③ 各自の思いや考えを追究・解決に向けて広げ深めることができるようにするために、児童の意見の交流やコーディネートを工夫する。

5 研究仮説について

- 『『問い』や『思い・願い』を引き出すための社会的事象との出会い』

教師が教材や資料を準備する際には、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して(視点)、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること(方法)」に基づいて、問いを意識することが大切である。

また、問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元などの学習の問題(以下、解説において「学習問題」という。)はもとより、児童の疑問や教師の発問などを幅広く含むものであると考えられる。

- 「社会的事象をもとに、自分の思いや考えをもてるようにする」

小学校社会科で養う「表現力」とは、考えたことや選択・判断したことを説明する力や、考えたことや選択・判断したことを基に議論する力などである。その際、資料等を用いて作品などにまとめたり図表などに表したりする表現力や、調べたことや理解したことの言語による表現力を育成することも併せて考えることが大切である。

「説明する」とは、物事の内容や意味をよく分かるように説き明かすことであり、「説明する力」については、根拠や理由を明確にして、社会的事象について調べて理解したことや、それに対する自分の考えなどを論理的に説明できるように養うことが大切である。「議論する」とは、互いに自分の主張を述べ合い論じ合うことであり、「議論する力」については、他者の主張につなげたり、互いの立場や根拠を明確にして討論したりして、社会的事象についての自分の考えを主張できるように養うことが大切である。

- 「追究・解決に向けて広げ深めることができるようにする」

課題を追究したり解決したりする活動の充実を図るには、小学校社会科においては、学習の問題を追究・解決する活動、すなわち問題解決的な学習過程を充実させること大切になる。問題解決的な学習とは、単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習などを指している。問題解決的な学習過程の充実を図る際には、主体的・対話的で深い学びを実現するよう、児童が社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程などを工夫することが考えられる。

6 研究内容

- ① 社会的事象の見方・考え方を働かせ、社会的事象を調べ、考えたり、選択・判断したりする学習活動の充実
- ② 地域素材の教材化と指導計画の作成
 - ア 地域素材の教材化と記録の累積
 - イ 地域素材の指導計画への明確な位置付けによる計画的指導
- ③ 観察や見学、聞き取りなど調査活動などの具体的な活動やそれに基づく表現活動の充実
- ④ 学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用した情報収集やまとめの工夫及び地図帳の活用
- ⑤ 小学校社会科における知識の習得とその手立て

7 研究の実際

(1) 第5学年

- ① 単元名 米づくりのさかんな地域ー山形県庄内平野ー
- ② 授業テーマ



米づくり農家がかかえる課題を解決するために、児童一人一人が考えをもち、グループや全体で

話し合いを通して考えを深めることができる授業

③ 授業テーマに迫るための手立て

- 児童一人一人が課題解決のための考えをもって話し合いに臨むことができるようにするために、事前に調べたり考えたりしてくるようにする。
- 自分の考えを深めるために、考えを記した付箋をグループで分類したり、全体で他の班の考えについて話し合ったりする。

④ 検証

○ 問いを持たせる授業づくり



お世話になっている農家さんから困っていることを直接聞くことができた。日本の農業で働く人の数も変化や米の消費量・生産量の変化のグラフを確認することで、全国的な課題であることを知り、課題解決のための新しい取り組みを調べる必然性・切実感をもたせることができた。

○ 話し合いの充実

グループ学習では、課題解決につながる理由を自分の言葉で説明しながら新しい取り組みを発表した。その後話し合って分類することで、考えを深めることができた。しかし、分類の視点が曖昧だったので、班によって分類の仕方が様々だった。

全体での話し合いでは、その取り組みについてどんどん切り返していくことで、他の班の考えについても一人一人が考えを深めることができた。



(2) 第6学年

① 単元名 「武士の世の中へ」

② 授業テーマ

事前に調べ学習をし、視点をもたせて話し合うことで、元軍との戦いやその後の鎌倉幕府について理解を深めることができる授業

③ 授業テーマに迫るための手立て

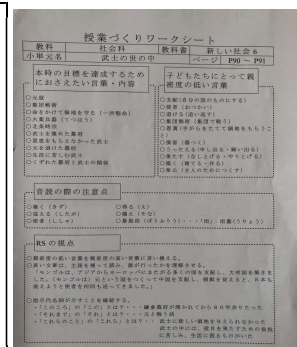
- 話し合いで活発に意見が出せるように、家庭学習で課題に対しての考えを付箋に書かせ、根拠となる教科書の記述に貼らせておく。
- 事前に付箋をチェックして児童の考えを把握し、理解につながり、深められるような考えを意図的に指名する。

④ 検証

○ RSの視点を持った授業づくり

児童が教科書を読み取り、学習内容を理解するために、授業づくりシートやRSシートを活用した。授業づくりシートは、児童が教科書を読むのにどこで躓くか、親密度の低い言葉はどれか、音読の際の注意点などを捉え、授業に生かしていくようにした。また、長文で主語のない文章には、主語を補って誰が何を行ったのかをはっきりさせて理解させるようにした。

RSシートは木曜日の朝の活動をRSタイムとして、児童が教科書を読んで意味の分からない言葉や読めない言葉を辞書などで調べる時間を設定し、授業の前に教科書が読めるようにしてから授業に臨むようにした。



○ 話し合いの充実



話し合いの充実を図るために、話し合いの時間と自分の考えをもつ時間の確保をしようと思った。そのために家庭学習で教科書を読み、課題解決に向けての考えをもって授業に臨み、考えを交流しながら課題解決していけるような授業を展開した。課題に向けて解決するためのポイントになる言葉や文、資料などにサイドラインや丸を付けて、そこから分かることを付箋に書かせるようにした。それを教科書に貼って本時の学習に臨んだ。また、付箋と拡大した教科書を活用して話し合いをすることで、根拠を明らかにして自分の考えを友だちに説明できるようにした。

全体での発表の際には、グループの考えを視覚的に捉えさせ、広げるためにロイロノートを活用した。

(3) 第4学年

- ① 単元名 きょう土の伝統・文化と先人たち 「2 谷に囲まれた大地に水を引く」
- ② 授業テーマ

児童一人一人が考えを表現し、視点をもたせて話し合うことで、相馬市に尽力した富田高慶の行ったことについて理解を深めることができる授業

③ 授業テーマに迫るための手立て

- 児童一人一人が調べたことを書いた付箋を使用することにより、児童同士がお互いの考えを出し合うことができるようにする。
- 話し合いに視点をもたせ、分類・比較を行うことにより、考えを整理することができるようにする。

④ 検証

- **RS**の視点を持った授業づくり

考えの追究・解決の仕方を学ぶため、教科書に取り上げられている他地域に尽力した先人についての例を読み、学習の参考にした。それらの具体例が自分の地域と共通することはあるか、置き換えられる内容であるか、読み取らせた。読み取る際には全学年で取り組んでいるRSシートを使用し、親密度の低い言葉や言い回しの意味を調べさせた上で授業に参加するようにさせた。

また、子どもたちから挙げられた言葉について、別の言葉で言い換えたり、昔の物を現在の物に例えてイメージしやすくしたりするなど、同義や推論につながる考え・言葉を補わせたりした。



○ 話し合いの充実

児童一人一人が考えをもって話し合いに参加できるよう、まず、資料集「ふるさと相馬」から読み取ったことを家庭学習で付箋に書き込ませた。グループでの話し合いの際には、その付箋を視点をもたせて分類させた。今まで各々がもっていた情報に、教師が意図的に視点をもたせたことで、社会的な見方・考え方を養えるようにした。

また、「なぜその人物はその方法を行ったのか」「実施したことで良かったことは何か」を付箋を出しながら話し合わせた。その後、児童から出た意見や言葉をカードにしたものを板書で取り上げることで、つながりや違いを視覚的に比較・整理でき、どのような内容がグループで話し合われたか共有しやすくした。

(4) 第3学年

- ① 単元名 店ではたらく人
- ② 授業テーマ

グループごとに品物のパッケージや地図帳を手がかりに産地を調べることで、国内などの他地域とのつながりを理解することができる授業

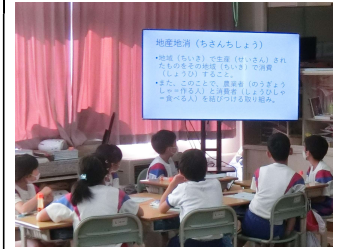
③ 授業テーマに迫るための手立て

- 学習問題や解決の見通しをもたせるために、大型テレビを活用する。
- 産地地図にまとめ、付箋に気づいたことを書くことにより、問題解決できるようにする。

④ 検証

- **RSの視点を持った授業づくり**

考えの追究・解決の仕方を学ぶため、他地域について、iPadの地図学習アプリを活用して、都道府県の学習をした。都道府県の名前やどこにあるのか、どんな形をしているのかに触れさせた。3年生という発達段階では、教科書を読んで自分の考えを持つことはまだできないので、わからない言葉の意味調べを中心にした。授業のキーワードになる言葉については、大型テレビで提示し、共通理解を図った。



○ 話し合いの充実

児童一人一人が考えをもって話し合いに参加できるように、産地が一目で分かるチラシを用いた「産地地図」を制作した。地図を見て、気づいたことを付箋に書き込ませた。グループでは、品物の種類ごとにどんな特徴があるのかという視点をもたせて話し合わせた。また、同じ品物でも別の産地から品物が運ばれてくる理由を考えさせた。今まで各々がもっていた情報に、教師が意図的に視点をもたせたことで、社会的な見方・考え方を養えるようにした。

トラックなどでの輸送時や店内での並べ方の工夫にも着目させた。外国からも運ばれてくる理由についても話し合わせ、社会的な思考・判断・表現を養うだけでなく、深い学びができるように指導した。



8 全体の成果と課題

① 児童の「問い」や「思い・願い」を引き出すために、社会的事象との出会いを工夫する。(社会的な見方・考え方)

- 様々な資料から、疑問や違いに気付かせ、「問い」や「思い・願い」を引き出すことができた。その際、ICTやゲストティーチャー等も効果的に活用することができた。
- 教材研究や準備に時間がかかり、日々の授業の中では「問い」がうまく引き出せないことがあった。

② 出会った社会的事象をもとに、自分の思いや考えを持てるようにするために、発問や指示を工夫する。(思考力、判断力、表現力等)

- 家庭学習との連携を図り、調べ学習などをして、自分の考えをもたせて授業に臨ませることができた。
- リーフレットや新聞、4コマ漫画などの様々な方法で学習したことをまとめることができた。
- 家庭学習と結び付ける時、導入や課題との出会いをどうするのか考えていく。ねらいにあった課題の与え方について考えていく必要がある。

③ 各自の思いや考えを追究・解決に向けて広げ深めることができるようにするために、児童の意見の交流やコーディネートを工夫する。

- 普段発言できない児童でも付箋を書くことにより自分の意見を書いてグループの中で交流することができた。教師は、児童の考えを把握し、話し合いのコーディネートにいかすことができた。

- 話し合いに視点をもたせたり，疑問を引き出したりして，児童の考えを引き出すようなコーディネート工夫してきた。意見や話し合いの場をより活発にし，考えを深め，広げることができた。
 - グループから全体に広げ，共有する話し合いや，深い学びに向けた終末の発問い課題が残った。
 - 教師のコーディネート力の向上。
- ④ 地域素材の教材化と指導計画の作成
- 地域素材を授業に取り入れることは，児童に社会的事象を「自分ごと」と捉えさせ，興味・関心を高める手立てとして有効だった。
 - 指導案の単元指導計画の中に，取り上げる地域素材について明記することによって，単元全体の見通しができ，見学やゲストティーチャーの活用を図ることができた。
 - 学年や単元により地域素材を扱うことができるものとできないものがある。教材研究をし，内容を見直しながら単元指導計画を作成していく必要がある。
- ⑤ 学校図書館や公共図書館，コンピュータなどを活用した情報収集やまとめの工夫及び地図帳の活用
- 児童はロイロノートを話し合いや学習のまとめに活用することができた。
 - 大型ディスプレイやタブレットPCを使い，資料の提示等に活用した。
 - ICTの環境と教員の活用能力の向上。
 - 学年の発達段階に応じた資料活用能力の向上（図書資料，地図，ICTの活用等）。
- ⑥ 社会科における知識の習得とその手立て（RSの視点をもった授業づくり、RSタイム等）
- RSタイム（木曜 朝時間）を設けたことやRSシートを使い，事前に親密度の低い言葉について調べていたので，児童は言葉に対する意識が高まったり，それを活用して教え合ったりする姿が見られた。
 - 教師は，授業づくりシートをもとに教材研究が深まった。
 - RSシートの保管や上手な活用の仕方。